

夢追い人

クマさんグッズの店

ちいくま 鶴 聡子さん

大川市小保31 TEL87-2377



「いやなこと多い時代ですが、好きなテディベアを見ていると心なごみます。ベアを見たり、だっこしたりするとやさしい気持ちになれるから、不思議ですよ。」

聡子さんは、1995年11月28日、40歳の誕生日を記念して、ちいくまをオープンさせた。「近くに売っているところがなかなかなくて……。自分で仕入れたくて店を開きました。」とのこと。

ちいくまには、ドイツ・シュタイフ社製テディベア、メリーソート社製、ヨーロッパの毎年限定のあるもの、アメリカのベアアーティストによる、一点もの、などのテディベアがそろっている。「ちいくま」で売った、長野オリンピック限定のテ



ディベアは、当時49,000円のもの、今では100,000円に値上がりしているそうだ。

仕入れは、一人で行っている。福岡の間屋、半年に一回開かれるアーティストベア展示会など自分の好きなベアを仕入れる。

さて、子どもから大人まで、世界中の女性たちに愛されてきたクマの縫いぐるみテディベア。それにはどんな歴史があるのだろうか
テディベアの名前は、アメリカ大統領セオドア・ルーズベルトの愛称“テディ”

からつけられたといわれている。1902年、クマ狩りに出かけた大統領が子ぐまを撃たずに逃がした話が新聞記事になり、翌年、その話をもとにアメリカで生まれたクマのぬいぐるみが“テディベア”。時を同じくして、ドイツでは今や世界的に有名なシュタイフ社がクマのぬいぐるみを作り始めた。それから1世紀、テディベア達は子供や大人の心を励ましてきた、というわけ。

一般的に“テディベア”には首に二つ、と手と足に2つずつ、合計5つのジョイントが使われている。だから、様々なかわいいポーズをつけることができる。それに素材は毛ヘア（アングラ山羊の毛）で、高級感がある。

でも、聡子さんはこう言う。「安価なソフトタイプのベアがあっても、今自分が大切に出来るもの、たとえば、小さいときから愛着を持ってきたものであれば、それがその人にとってテディベアになると思います。大事なものは、そのクマのぬいぐるみにどれほど愛情を注いでいるかではないでしょうか……。」

店を訪れるのは、小さな子供を持った奥さんや若い男性、おばあちゃんが多い。テディベアのほかに、クマの絵のついた雑貨もたくさん置いてある。

あなたも一度訪れてみてください。心なごむひとときとなるかもしれません。

